

地域の宝物である子どもへ伝統行事を引き継ぐ

武尊親和会

片品村



武尊山や白根山などの山岳風景と10の温泉があり、自然環境に恵まれた片品村の花咲地区の老人クラブである武尊親和会は、地域の子どもたちとの交流を大切にしている。



わら鉄砲作りのお手本を見せる



会員の指導でわら鉄砲を作る児童

●活動内容

武尊山や白根山などの名峰を有し、自然豊かな片品村の花咲地区では、片品南小学校の児童と武尊親和会の会員が伝統行事を通して交流を深めている。

「にこにこ集会」という学校行事の中で、この地域に伝わる「十日夜(とおかんや)」に使うわら鉄砲を会員が全生徒に教えている。十日夜とは、旧暦10月10日に行われる伝統行事で、この時に使用する道具が「わら鉄砲」だ。わらを束ねた中に里芋の茎を入れて作り、それを地面に叩きつけ、大切な農作物を荒らすモグラや野ネズミなどを追い払う。

学年を交えた班で、会員に教わりながら、生徒全員が一つずつわら鉄砲を作る。低学年児童を、高学年児童と会員が手助けする。わら鉄砲作りが終わると、代表の児童が、感謝の気持ちを会員へ伝える。

その後、「ふれあいの会」として、5、6年生が会員と一緒に給食を食べ、合唱を披露し、感謝の気持ちとともに会員へプレゼントを渡し、会は終了となる。

「にこにこ集会」は、子どもたちとふれあうことができるため、親和会の会員も毎年楽しみにしている行事の一つである。

●事業を始めたきっかけ

片品南小学校と武尊親和会の交流が始まったのは、昭和58年。花咲地区内にある学校から、福祉教育の一環として学校行事に参加・協力して欲しいと要請を受けたことがきっかけ。この交流は、子どもたちが「温かい心を持って人と接することの大切さを学び、地域の伝統行事に対して理解を深め、参加する気持ちを育てる」機会として、重要な意味を持つ。

片品村も過疎化により、地域の子どもは少なくなりつつあるが、「住みやすい地域環境を作ろう、地域の伝統文化を守ろう」と、会員は世代交流や伝統行事の継承活動に努めてきた。交流はさらに広がり、「学校支援隊」として、児童と一緒に作物を育てたり、「昔あそび集会」として、低学年児童へ竹トンボやお手玉、あやとりやビー玉遊びなども教えている。また、運動会に参加し、子どもたちと楽しく玉入れなどをする。

学校や家庭、地域が連携して子どもたちを育ててきた地域ならではの活動である。

同会では他にも、健康運動やグラウンドゴルフ、輪投げなどの健康づくりや、神社・仏閣の清掃活動などの社会貢献活動をしている。



感謝の気持ちを会員に伝える児童たち



「ふれあいの会」でみんなと給食をともにする

●工夫している点・特長

武尊親和会への加入率は、県内で第3位と高い。その理由は、花咲地区の花咲地域福祉協議会が、地域の福祉活動として積極的に参加の場を提供していることや、参加者同士が呼びかけ合い、孤立しないよう配慮していることが挙げられる。そのため、地域では良い人間関係が築けており、皆はつらつと元気だ。

武尊親和会は、2013年に全国老人クラブ連合会長表彰を受賞。周囲の山々が織りなす素晴らしい片品村の自然の中で、日々元気に、地域での活動を続けてきているからだろう。

経験や知識が豊富なシニアから、子どもたちへと教えられることは沢山ある。のんびりと自然に触れて、世代間での楽しいふれあいの中で過ごすことが、元気でいる秘訣である。

片品南小学校は、過疎化により統合されることが決まった。子どもたちは離れた場所の学校へ通学することになるが、今後も何らかの形で交流を図り、地域の宝である子どもたちを守り、大切にしたいと考えている。会員は、常に地域のことを思い活動している。



〈やりがい・楽しみ〉

「地区によっては子どもの声を聞かない所もあるので、ここでは子どもとふれあう機会が多いと思います。自分の孫はもう大きくなったので、子どもたちの楽しそうな声を聞きながら教えるのはうれしいですし、いつまでも続いて

ほしい行事です」と、前会長の星野武功さん(78)。

子どもたちと同じ目線で遊び、ともに過ごすことで元気になる。楽しく充実した時間を過ごすことが、会員のやりがいにもつながり、生きる力を生み出している。

基礎データ

☎0278-58-4812

社会福祉法人
片品村社会福祉協議会内
片品村老人クラブ連合会

事業開始時期／

昭和40年

主な活動／

世代間交流
清掃活動ほか

人数・年齢／

106名 平均80代前半

実施主体／

武尊親和会(老人クラブ)